

- 福祉の現場から高校生のみなさんへ -

天下の自由業「保育」 - その礎を福祉大で -



ある日の保育園

「ぼくはね、ほいくえんはいるまではおんなのこだったんだよ」と年長児でも幼さの目立つR君が言う。と「Eーなにいつてんの、うまれたらおとこはおとこにきまつてるでしょ」と女の子を取り仕切っているKちゃん。そこ「そんなことないよ、ぼくだつてほいくえんはいるまでおんなだったんだよ」とクラスのリーダー格T君がオシヤベリにはいつてきました。するとそれまでは揺るがない表情だったKちゃんにありありと動揺の色が見えます。「Eーそつ、そんなことして」。

ある日の保育園

鑑郷保育園 園長 廣井 茂道

目次：

天下の自由業「保育」 ・廣井 茂道さん	1
ふくしの世界へようこそ 新カリキュラムスタート 教育現場から福祉を 考える ・高橋 誠衛さん ・金安 良則さん	2
地域で福祉を考える ・沢田 繁さん ・尾崎 薫さん	4
新潟県地域同窓会長 ・山賀 亮一さん	5
入試インフォメーション	6



保育への関わり・先生の心と言

私が保育を学び始めたのは学童保育の指導員をアルバイトでやってた頃でした。子どもと、どうもうまくいかない、学童保育って何をしたらいいんだろうと悩んだ頃でした。勉強と部活動一筋であった私にとつて、下校後とは、おやつを食べて勉強する、それが子どもの生活だと思っていました。

ひと月たちふた月たちするうちに、30人いた子どもは10人ほどに

減っていました。「これは自分に非があるのではないか」悶々とした日が続きました。

そこで勇気を振り絞って「児童福祉総論」の授業後、壇上の浦辺史先生(2002年没97歳元学長)に苦しい胸のうちを明かしました。

先生は私の話を聞くと意外なことをおっしゃいました。「僕は子どもたちを連れてよくお風呂屋さんに行つたな」と。その言葉を聞いて、それまで苦痛だった保育がなにかとつても楽なものに変わったことを覚えていました。

そんなことをキッカケに保育を学ぶこと、福祉を学ぶことに埋没していききました。それは今も私を支えています。生活を共にするこの意味、ヒトの成長・発達にはすじ道があることなど。

翌日のKちゃんの連絡帳には、「Kが面白い話を聞かせてくれました。男の子は保育園に入ると男の子になるんでそれまでは女の子だったの?と。そう言ってるんならそうかもね。つて言うのと、うちのお母さんも変なんだという顔をして行つてしまいました。おフザケに感わされたい娘に成長を感じました」と。機転が利いて、接していても楽しいKちゃんのお母さんの懐の深さを感じてしまったのですが、こんなふうにも子ども保護者として職員が触れ合う中で保育は進んでいきます。楽しいことはもちろん、悲しいこと、苦しいこと、そして困ったことを保育園は一緒になって考え、感動し、涙するのです。

確かな土台をつくる

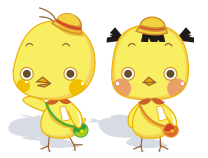
日本福祉大学の素晴らしさは先生だけではありません。

そこに集う学生同士の学び合いの場を築いてきたことだと思えます。その一つがゼミナールです。週にたった一回ですが、それが楽しみでした。今に至つても4年一度ゼミ会を続けています。ゼミといえは「レポーターがいて、それを聞いて議論する、最後に先生から助言をいただく」ということが一般的ですが、福祉大のゼミはそうではありません。そんなに簡単ではなかったのです。みんなが納得するまで議論し学び、調べました。時には感情的になつて下宿まで押しかけて「あんたのあの発言

なーちよつとみんなを見下しとるんと違うかー」と朝まで侃々諤々議論することはよくあること。ゼミに出るために相当の準備をして臨んだものです。時には崖っぷちに立たされたような緊張感さえ覚えたものでした。一緒に学ぶ楽しさとはそういうことをくぐつて初めて味わえる世界なんだなと今でも思っています。

保育の世界は自分で考え、自分で実践することが基本です。それだけ責任が大きいと言えるでしょう。でもそれを支えてくれる人たちがいるのです。保護者はもちろん、保育園の上司・先輩・同僚です。自分で得てきたものを糧に、自分をさらけ出しながら子どもたちと楽しい日々をつくらせていく、それが保育という仕事です。保育には学校教育のように「ああしなればならない」とか「必ずこれをしなさい」「ここまで到達させる」というものはありません。あくまでも自分を信じて子どもたちとの生活をつくらせていくのです。その自分を信ずるに足る礎をつくるべく学び・遊び・鍛え、世界を広げていくことの大切さを体感できる場、それが日本福祉大学かなと40年前を振り返つて思っています。私には他大学から転入しただけに、福祉大の雰囲気はたいへん印象的だったのです。

①巻高校
②社会福祉学部第2部S 50年度卒

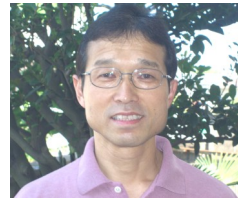


「教育現場から福祉を考える」

「熱き胸」と「冷たい頭」

新潟県立新潟養護学校

高橋 誠衛



私は現在、新潟県立新潟養護学校に教員として勤務しています。

私と日本福祉大学の出会い、浪人生活をしていいたときのことでした。「できるだけ偏差値の高い大学へ」。何の疑いもなく周りの「上へ上へ」といった偏った考えにのみ込まれている自分でしたが、確か願書をそろそろ出さなければならぬ12月のことです。寮の仲間が一冊のパンフレットを持っていました。それが日本福祉大学のパンフレットでした。パンフを見せてもらい「すごく感動したのを感じています。これまでの自分自身の価値観とはまったく違う、ヒューマニズム、人間としての生き方を問われる内容でした。それを見て迷わず受験を決めたのを思い出します。」

今年の6月、日本福祉大学から教育実習生が来て、私が指導教員をさせてもらいました。毎日の実習のコメントの一つとして次のようなことを書かせてもらいました。「・(前略)障害のある子どもをとらえる視点として「発達」「障害」「生活」が大切なことは、お話ししましたが、教育実践においては、そこに、それぞれの指導者らしさ(人間性)が加味されると思っています。卒業後、子どもたちにも同僚にも魅力的な教師になるために、自分自身が、大学で何を学ぶか!という

ことと、卒業後も一人の人間としてどう豊かに成長・発達していくのかということが教師には(教師だけではありませんが)問われてきます。自分を磨くことを忘れずに頑張ってください。」

大学を「選ぶ」とは?

大学選択は、単にどんな仕事をしたかということだけではなく、自分自身がかどう生きるのかという自分自身を高め、自分自身を磨くための選択と実践だと思っています。

日本福祉大学は、理論と実践をとても大切にしている大学です。卒業後、ゼミやサークルの仲間と会ったりすると「現場に入つて、あのときのあの授業の大切さがあらためてわかった。」「もっとしっかり勉強しておけばよかった。」「もう一度勉強するとしたら、日福大で学びたい。」等々の言葉を聞きます。それは私自身の実感でもあり、多くの卒業生が今ももっている気持ちです。

「わかる」には、「聞いてわかる」「話してわかる」「書いてわかる」「実際にやってみてわかる」というように、いろいろな体験を通して本当の「わかる」ことに結びつきます。

そういう意味で、大学でのサークル活動、ゼミ活動は、今の私の土台になっています。たとえば私の恩師、大泉溥氏は、著書「障害者の生活と教育」で障害児を抱えた家族は、子どもの「出生」「入学」「卒業」などいろいろな生活の節目で危機があることを具体的な事実から記しています。私は、障害者問題を学ぶ中で、そんな



大学選択は、自分自身を磨くための選択!!

な保護者の「思い」をしつかり受け止めながら教育実践をしなければならぬと強く思っています。

子どもの「発達」とは??

また、発達については「できないことが、できるようになる」「そのことが「発達」だろうか。そんな議論を京都大学の田中昌人氏の論文を使いながら半年くらいゼミで議論したことがあります。誰もが「できないことが、できるようになる」ことを望むのは当たり前です。しかし、上へ上への発達だけが発達であると考えると、子どもの立場に立たない管理的・訓練的な指導、現在では発達を数値化するなどといったとんでもない指導に陥る危険性があります。発達が緩やかな障害児にとつては、今、獲得している力を「いろいろな人とかかわりの中で」、また、「様々な場面」で発揮できることも「発達」です。この発達観(横の発達)は、私が教育実践をする上での基礎になりました。

「障害児教育に共感と科学を」という言葉があります。子どもたちと子どもたちの声を代弁する家族の思いを受け止め、その思いに寄り添いながら(共感)教育実践ができること。そして、子どもたちを見つめる確かな目(科学)が現場の教師には必要です。教師は、子どもたちの未来を仲立ちする実践者です。そういう意味で一人の人間として、教育に携わるものとして大いに大学で研鑽を積んでほしいと願っています。

- ① 中条高校
- ② 社会福祉学部 S 56 年度卒

「ふくし」の世界へようこそ

新潟県各地の医療、福祉、教育、地域、様々な現場で本学出身のOB・OGの皆さんが活躍しています。
新潟県出身卒業生総数 744人
※2010年4月現在

このリーフレットは、高校生の皆さんに、ぜひ福祉の専門家として、新潟県の「ふくし」を担ってほしいと願い、福祉の現場からのメッセージを編集したものです。

2011年4月 社会福祉学部・経済学部 新カリキュラムがスタート!

日本福祉大学では、ふくしを構成する「いち」「くらし」「いきがいの」3つの領域を核として学部・学科が編成され、これまでの伝統と実績をもとに、2011年4月、社会福祉学部と経済学部が新しく生まれ変わります。

社会福祉学部 豊かな人間力と実践力を備えた、社会福祉の実践者をめざす

少子高齢社会を迎えた現代においては、「困っている人」だけでなく、子どもからお年寄りまで、ライフステージすべてが福祉の対象です。すべての人の福祉を実現していくために、社会福祉を實踐していく人材に求められる力は、より広くより専門的なものとなっています。

2011年度より新しいカリキュラムを採用し、新たな時代のニーズに対応し、日本で初めて「社会福祉」の名称を使用した学部としての伝統の上に、新たな挑戦をもつて、福祉社会を支える人材育成

大学で学ぶということ



知的障害児施設まごころ学園
知的障害者更生施設まごころ寮
園(寮)長 金安 良則

入学した頃は…

この原稿依頼があった時、あまり模範的な学生ではなかったために、少しためらいました。今でこそ、ふたつの障害者施設の施設長として勤務し、地域の自立支援協議会の副会長等の福祉現場の中に身を置き、コミットメントを求められたりもしますが、高校の頃に、このような仕事に進むことになるなどとは少しも考えたことがありませんでした。

高3の夏休みが終わった頃のことを思うと、誰もが受験勉強だの就職活動だのと日増しに真剣みが帯びてきた頃、将来の目的も見出せないまま、ひとりで街の小高い丘に登っては、夕日が沈む時の家並みの陰景を何時までも見入っているような、そんな高校生でした。ただ、社会的排除と孤立の中にいる人たちの関心と同情と社会に対するやり場のない小さな憤りを覚え始めたのもこの頃だったと思います。

紆余曲折の末、日本福祉大に入学しましたが、入学を決めた後でさえ、その進路に迷い、入学式当日、それもアパートも決まらずに、リュックに寝袋をひとつ入れたままで名古屋駅に降りました。

気兼ねのない語り口やお節介ともいえる何気ない気配りが “日福カラー”

学生課で下宿を斡旋してもらい、照明器具もない、ただ真つ暗な4畳半の空間で、朝までまんじりともせず、これからの事を考えていました。暫くは、大学にも殆ど姿を見せずに、生活費の補てんのためにアルバイトを始めていました。

ゼミ仲間が支えてくれた

そうこうしているうちに、入れ替わり顔も名前も分からないクラス仲間が部屋に来ては、次回の『現学』には顔を出さように誘いに来てくれました。『現学』というのは、当時『現代と学問』の通称で1年次のクラス単位に設定されていた入門ゼミのようなもので、後日、顔を出すと、すでにニックネームが決められていて、気さくに声をかける仲間たちに、照れるやら恐縮するやらで、身の置き所がなかったことを思い出します。気兼ねのない語り口やお節介ともいえる何気ない気配りが日福カラーだと知ったのはもう暫くしてからのごときでした。

なによりも、生涯の友を得たのも、共鳴し共感できることの喜びを初めて知ったのも、高校の頃に漠然と考えていた小さな憤りの向かう先がおぼろに見えてきたのも、友との出会いとたわいない討論が始まりでした。

ちょうど私が入学した1979年に刊行された、嶋田豊先生著書の『大学で何を学ぶか』と真下信一先生著書の『学問と人生』に出会い、講義を聴講することができたことも、学ぶことの意味を知る大きなきっかけでしたし、福祉職の道に進んだ後も、観念形成という価値観の土台になつていてと思います。

大学で考えること

将来の進路を、私と同じように決めかねている方も多いのではないかと思えます。雇用情勢が厳しいときですが、長い人生の道程を見据えながら、結論を急がず、もう少しゆっくりと、そして深く考え、『自分自身を知る』あるいは『学ぶ目的を知る』機会が、大学という場所であつても良いと思えます。それが、これからの未来にきつと役立つと確信しています。

最近、福祉系大学への選択肢で、社会福祉士の合格率や就職率のことが、私が先行しすぎている気がします。私も資格制度が始まった頃に受験しました。まだ新潟県では有資格者が数名で情報も少なく、過去問などもない頃でしたし、周りの資格に対する理解も少ない頃でしたから、それはそれで大変でしたが、「自分は何」「何のため学ぶの」といった目的があつてこそ達成できたと思います。

障害福祉では、今、大きな転換期を迎えつつあります。目まぐるしく変わる制度に、咀嚼する間もなく翻弄されていくといった現状もあります。また、様々な情報が氾濫しているようにも思えます。そのような中で、不易なものをお大切にしつつ、何を変えなければならぬのか、その判断がとても大切で、

そして、その判断に迷ったとき、見せかけの正解ではなく、あの『現学』の時代に戻って、自分らしく本当のことを考えようとする私があります。

経済学部

経済学と経営学を学び、新しい福祉社会をデザインする

経済学と経営学を基礎にして福祉の視点を学び、持続可能な社会を設計する手法を身につけ、企業・医療・スポーツなどの分野での活躍を通して、豊かな福祉社会の構築に貢献できる人材の育成を目標としています。

1年生では、一般教養科目(総合基礎科目)を中心に学習し、専門教育を学ぶための基礎学習力を身につけます。

2年生からは、進路を意識したコース選択を行い、コース配当科目を中心に学習します。「新・経済学部」に必要な専門科目は、学年に応じて配分しています。

- ファイナンスコース
- 地域経済コース
- ビジネスマネジメントコース
- 医療福祉マネジメントコース

その他、健康科学部・子ども発達学部・国際福祉開発学部・福祉経営学部(通信教育)でも、ビジネス、経済、教育、医療、国際等、さまざまな領域で解決できる『福祉力』のある人材を育成しています。

新生・社会福祉学部、経済学部についてもっと詳しく知りたいという方は、入学広報部(0569-1871-2212)または、富山オフィス、松本オフィスまで、お気軽にお問い合わせ下さい。

- 福祉実践コース
- 医療福祉コース
- 地域福祉コース
- 福祉社会コース

に取り組んでいきます。2年時から、各自の目指す進路に向けて4つのコースにわかれて学習していきます。

- ①見附高校
- ②社会福祉学部S57年度卒

- ①出身高校②卒業学部

「地域で福祉を考える」



地域住民に寄り添って

上越市教育委員会

沢田 繁

私は、大学卒業後、ふるさと、新潟県上越市に戻り、今、教育委員会生涯学習推進課で、「社会教育」という仕事をしています。

卒業生の中で、私のように社会教育主事として働く卒業生は、少数派なのですが、とても大事な仕事です。

地域の課題解決に向けて…

「これはおかしい」、「○○になれば、もっと良くなるのに…」。

毎日の生活のなかで、何かしらこんな疑問が沸き起こってきませんか？

小中学生や高校生なら、すぐに家族や学校の先生に聞いたり、図書館で調べたりして、解決に近づくことができるかもしれませんが、でも大人の場合はどうでしょう。

そもそも「おかしいな」と思う対象が、毎日生活する地域社会や自治体のことであつたり、政治や経済、社会の問題であつたり、自分一人ではすぐ解決できない大きなものばかりです。



中学生と一緒にこれからのまちづくりに関して考える沢田さん。

当市を例にすれば…。平成

17年1月1日

に、14市町村が合併して、新

しい「上越市」がスタートしました。今まで「○○町」などと呼ばれていたものが、合併に伴って「○○区」と呼ばれるようになり、毎日生活する自治体の枠組みが大きく変わったのです。

また、平成26年度末には、北陸新幹線が開業し、市内に上越駅(仮称)がオープンします。それに伴い、並行する在来線をどうするか、新駅周辺をどう整備し活用するかなど、大きな課題となつていきます。

一方、生活に身近なところでは、少子高齢化が進んで65歳以上の高齢者が半分以上を占める集落(いわゆる「限界集落」)が増えています。このなかで集落を縫うように走る路線バスも、赤字が続き、存続が危ぶまれるところもありますし、一方、住宅やショッピングセンターが郊外に次々に造られて、市街の中心地が空洞化し、その活性化も叫ばれています。核家族化や単身赴任など家族や労働の形が変化する中で、高齢者の介護も大きな問題です。

このような住民の問題意識や毎日の生活の中から生まれてくる課題を受け止め、同じような意識を持つ住民を集めて、その解決に向け、講座や教室などの社会教育事業を展開するのが、私が担当する「社会教育」の仕事です。「公民館」という社会教育施設を舞台にして、仲間とともに考え、話し、活動し合う住民を、「社会教育主事」が支えています。

公務員の仕事を通して

このように社会教育現場で12年目となる私ですが、卒業した頃の頃は、市町村合併前の旧名立町役場で、大学で学んだことを活かし、高齢者福祉を担当していたのです。ちょうど老人福祉法等の改正があつ

上越市では、沢山の地域資源・人材を活用し、子どもたちの体験活動を進めています。合言葉は、「ふるさとを語る子どもたちを育てたいよね」。



て、老人ホームへの措置権が県から市町村に移譲になった頃です。保健師さん方と一緒に「老人保健福祉計画」を策定したり、高齢者生活福祉センターの整備を担当したりしました。

その後、産業課というところで、商工観光施策の振興と、田んぼや用水路の整備など農林水産省が所管する公共事業の事務を担当しました。このように、公務員としていくつかの職場を経験してきました。このことが、市政全般にわたって総合的な視点や、高い「アンテナ」が求められる今の職場で、非常に役に立っています。

生活保護制度の改善を進めるため、裁判闘争に携わったお話。障害をもつ方の就労を保障するため、共同作業所をつくり、最終的には法律に位置付けられるところまで運動を進めたお話…。大学時代にお聞きした先輩方が活躍されたお話を今でも思い出しています。

そこには、「おかしい」、「もっと良くしなければ…」という強い問題意識があつて、解決に向けた実践に繋がったことと思います。このような先輩方に続き、私も、社会教育の現場で、住民の皆さんの問題意識を掘り起こし、学ぶことを通じて日々の生活の改善に努力する人たちに寄り添っていきたく、日々思っています。

人のために思いを寄せる大切さ NPO法人 ほっと妙高パン工房

尾崎 薫

私は、日本福祉大学女子短期大学部の出身です。しかも、名古屋出身で、要するに地元生。実は希望の学部が他にあったのですが、当時、女子大生の就職難と資格を持つことが注目されてきた頃で、「保育科」を選び、情勢に流されるまま短大生になりました。

最初の授業で入学動機を一人ずつ話した時、9割ほどの地方出身の皆さんが「私は将来地元へ帰って、福祉の担い手になりたい。」と熱く語る姿に、ともかく圧倒されました。この学校で学んで良いのだろうかと思つた後ろめたい気持ちになったものです。

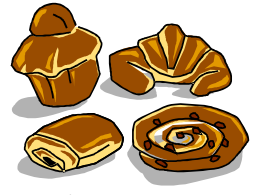
このように始まった2年間でしたが、日々繰り広げられる先生方の授業は新鮮で「子供を丸ごと受け入れ、子供の視線で見たり考えたりする事、一人一人を大切に『保育』を教わりました。出会った友人たちからは『人のために思いを寄せる大切さ』を学びました。また、



妙高市産コシヒカリ100%のパンを作って、市内の小中学校の給食に出しています。

①直江津高校

②社会福祉学部H2年度卒



学んだ事を体感する毎日でした。

妙高に住んで

それから、縁があり新井(現妙高市)に住む事になりました。短大時代の学んだ事を思い出しながら、大自然の中で子供たちとよく遊びました。平成3年に誕生した第3子は、知的障害がありました。不思議なくらい自然な気持ちでいられました。『この子もそれぞれのゴール、ペースはあるが、一つずつ発達の段階を上っていく』という授業を思い出すことで、この子なりの明るい未来を信じ、障害に向き合い、受け入れることができたのです。子育てが少し落ち着いていた時、知的障害者の作業所で働く機会を得ました。しかし、障害者福祉はほとんど分からないことばかり。そんな時、同窓会だよりに載っていた通信学部を思い出しました。

そして2004年から通信教育部で、2回目の日福生になりました。家庭・仕事との両立は思った以上に難しく、特に4週間の実習は大変でしたが、学生として課題を持つて取り組む事が出来ました。仕事を始めた時から関心があつた地域で暮らす知的障害者の余暇活動を、各講義を通して考える事が出来、余暇活動支援の必要性を改めて深く考えました。

扉をたたく

私は、決して志を高くもって大学生活を送った訳ではありません。しかし、こんな私でも何か他の人のために出来ることはないかという気持ちがあつたのだと思います。短大時代の思いに気付かせてもらい、社会人として歩む土台を作っていたかったです。通信教育部時代、知識を深めることで、福祉を職業とすることに誇りを持つことが出来ました。日本福祉大学で福祉の精神を学ばせて頂き、人としての成長出来た事を感謝しています。皆さんの中にも、進路に迷ったり悩んだりしている人は多いと思いますが、とりあえず門を叩いてみるのも道が開けるチャンスかもしれません。



毎日、仲間たちと一緒においしいパンを作っています。

- ①愛知県立惟信高校
- ②女子短期大学部保育科S55年度卒、通信教育部福祉営学部H19年度卒

- 日本福祉大学 新潟県地域同窓会長より -

職業人講話に招かれて

「福祉を学ぶこと」の面白さ

日本福祉大学 新潟県地域同窓会

会長 山賀 亮一

去る10月13日、新潟県立五泉高等学校において1、2年生対象に「職業人講話」として、「社会福祉士・介護福祉士」についてお話をさせて頂いた機会がありました。キャリア教育の一環として様々な現場で働いている方を招き、将来の進路選択に向けたお話を直接行う機会を設けているのだそうです。今回は福祉に関心のある生徒の方々が40人余り参加してくださいました。

どうして福祉大に

さて、授業では、まず私は「どうして福祉大学に進学しようと思ったのか」からお話しました。私は当時24時間テレビを見て「これから福祉の時代が来る」と直感しましたが、地域には卒業後働く場所が今と比べ物にならないくらい少なかったわけですね。それを理由に周囲から反対もありましたが、自分の中にはチャレンジしたいという気持ちを捨てられず日本福祉大学を受験しました。

次に、高校生の皆さんにとっては「国家資格である社会福祉士と介護福祉士の資格の大きな違いについて、大学で発行している『はじめてのふくし』を

では、よい支援ができるようになるためにも今は国家資格をとつていくことが必要とされる時代になってきたことを説明したのですが、現場では社会福祉士と介護福祉士がきれいに区分けされていないところも多いというところもあるので、その点をもっと具体的に話せたらよかったです。不十分だったかもしれません。

「福祉の仕事」の魅力とは

私自身、障がい者福祉に関連する仕事に将来就きたいという思いがありました。3年生のゼミの実習で初めて重症心身障がいをもつ子どもに接する機会があり、自分がかうまく接することができず大きな挫折感を味わったことがあります。けれど、利用者や仲間から元気をもらい、「ここまであきらめず続けることもできました。」

福祉の仕事の魅力についても、私の説明不足の箇所を補う意味で『はじめてのふくし』の一部を活用し、卒業生の現場での活躍やこれから福祉を目指す方へのメッセージを紹介し、私も共感できることを伝えさせていただきました。お給料は決していいとはいえないかもしれませんが、誰かに必要とされている仕事です。ぜひたくさんの笑顔とありがとうがもたらえるような仕事ができる専門職を目指して欲しいと伝え、授業を締めくくりました。

私の時代にはこのようなキャリア教育というものはありませんでした。今の高校生は現場のことが、直接話が聞けるといふのは本当に恵まれていると思います。福祉の仕事は楽しいことばかりではないけれどやりがいのある仕事です。それらを踏まえたいうで私たちのような現場の職員が直接生の声で「福祉を学ぶこと」の面白さを伝えていくことも意義があるので感じました。



「福祉の仕事」について語る、山賀さん。『はじめてのふくし』を活用し、解説をしました。また、福祉の仕事を目指すためにはどうしたらいいかという点について

- ①巻高校
- ②社会福祉学部S57年度卒
- ③新潟もぐら会ボプラの施設長

2011年度 ～入試インフォメーション～

いよいよ、本格的に入試シーズンが到来！
受験生のみなさん、入試の準備はすすんでいますか？
本学でも下記の日程で、各入学試験の出願が始まりました。

まだ願書を取寄せていない方は、大学HPからでも、
各ブロックでも願書の入手可能ですのでご連絡下さい。
大学HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/>

その他、第一志望ではないけれど大学の話を
聞いてみたい…自分にあった入学試験方法はど
れだろう…学費や経済的なことが不安…など大
学に関して疑問や悩みがある方は、個別にご相
談に応じます。

まずは、お気軽に富山オフィス・松本オフィ
スまでご連絡下さい。

◆一般推薦入学試験、専門高校・総合学科等 推薦入学試験のご案内

	前期日程	後期日程
書類出願期間 (消印有効)	【郵送】 11月1日(月)～17日(水) 【窓口】 11月18日(木)	【郵送】 12月6日(月)～13日(月)
試験日	11月28日(日)	12月19日(日)
合格発表	12月4日(土)	12月22日(水)

◆スポーツ推薦入学試験(一般・指定種目)・ 文化・芸術系部活動など推薦入学試験のご案内

	中期日程	後期日程
出願期間 (消印有効)	12月6日(月)～ 13日(月)	2月8日(火)～ 15日(火)
試験日 文化・芸術系 スポーツ(一般)	12月19日(日)	2月20日(日)
スポーツ(指定)	各サークル指定による	
合格発表	12月22日(水)	2月23日(水)

※文化・芸術系部活動など推薦入学試験は、今年から新設された
試験方式です。

◆一般入学試験のご案内

	前期日程	後期日程
書類出願期間 (消印有効)	【郵送】 1月4日(火)～27日(木) 【窓口】 1月28日(金)	【郵送】 2月15日(火)～3月3日(木) 【窓口】 3月4日(金)
試験日	2月3日(木)・4日(金)・ 5日(土)	3月9日(水)
合格発表	2月14日(月)	3月16日(水)

◆大学入試センター試験利用入学試験のご案内

	前期日程	後期日程
書類出願期間 (消印有効)	《全学部出願型》 1月4日(火)～14日(金) 《5教科・3教科・2教科》 【郵送】 1月4日(火)～31日(月) 【窓口】 2月1日(火)	《3教科》 【郵送】 2月15日(火)～ 3月3日(木) 【窓口】 3月4日(金)
合格発表	2月14日(月)	3月16日(水)

- 入学試験の内容については、再度「受験ガイド2011」・「入学試験要項」で必ずご確認下さい。
- 入学試験に関してのご質問は、入学広報部(0569-87-2212)または富山オフィス、松本オフィスまでお問い合わせ下さい。

◆「経済援助学費減免奨学生」募集のご案内

経済援助学費減免奨学金制度とは、「大学で何がしたいか」という「目的意識」「やる気」を評価し、家庭状況や居住地(過疎地
であることなど)を勘案しつつ、支援を入学前に決定するものです。申請前に事前面談が必要となります。

この制度が大学進学をめざす方々への一助となることを期待しています。募集要項、申請書は大学HPよりダウンロードできます。
その他、詳細につきましては、入学広報部(0569-87-2212)までお問い合わせ下さい。

大学HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/>



日本福祉大学同窓会 新潟県支部・日本福祉大学 北信越ブロックセンター共同デスク

◆日本福祉大学 新潟県地域同窓会

〒950-0323 新潟市江南区嘉瀬1047-2 ポプラの家 TEL (025) 280-3394 / FAX (025) 280-4374

◆日本福祉大学北信越ブロックセンター 富山オフィス / 松本オフィス

〒930-0002 富山県富山市新富町1-2-3 CiC(シック) 4階
TEL (076) 431-2027 / FAX (076) 431-2028
Mail toyama@ml.n-fukushi.ac.jp

〒390-0815 長野県松本市深志1-2-1 ミヤノオビル5階
TEL (0263) 31-9011 / FAX (0263) 32-8018
Mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp